



# 『東北圏だより』

## 11月1日は県民読書の日

### 秋田県

秋田県では、議員提案で制定された「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」（平成22年4月施行）に基づいて、「秋田県読書活動推進基本計画」を策定し、知事を本部長とする推進本部のもと、教育庁をはじめ各部局との施策連携や図書館等との連携により、幅広く県民運動として読書活動を推進しています。平成26年度は、条例施行から5年目を迎え、県民の読書に親しむ気運を更に高め、盛り上げるために、「県民読書の日」を制定しました。11月1日は、全国の読書週間（10月27日～11月9日）の期間中であり、旧秋田県立図書館の開館日（明治32年11月1日開館）であることから、県民に読書に親しんでもらう日としてふさわしいという理由で、この日に決定しました。条例も「県民読書の日」の制定も、県レベルでは本県が唯一と思われます。

### <制定記念として創設した「ふるさと秋田文学賞」>

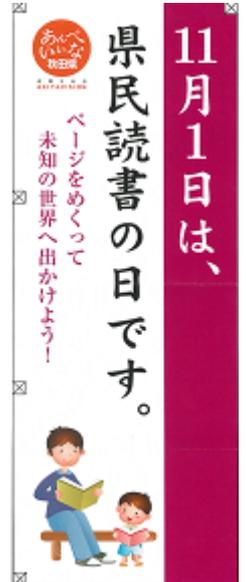
「県民読書の日」制定記念として創設した「ふるさと秋田文学賞」は、誰でも応募できる文学賞です。ただし、テーマは「秋田」に限定し、秋田県を舞台とした、あるいは秋田県内の自然・人物・風土・物産などを題材とした作品を募集しています。選考委員は、内館牧子氏（秋田市出身：脚本家）塩野米松氏（仙北市出身：作家）西木正明氏（仙北市出身：作家）の秋田県出身の方々です。第1回の最優秀賞は『竿燈万華鏡』というオムニバス形式の作品で、秋田竿燈まつりをテーマにしたもの、優秀賞は『焼畑の子』という作品で、農業や後継者問題など秋田県の課題をとらえたものでした。今年度も「第2回ふるさと秋田文学賞」を実施し、11月1日の「県民読書の日」に開催される表彰式に向けて選考中です。

### <さまざまな読書推進事業>

プロスポーツチームのTKbjリーグ「秋田ノーザンハピネッツ」とJ3リーグ「ブラウブリッツ秋田」と協働で、選手おすすめ本を紹介したリーフレット等の作成や試合会場での読書コーナーの設置等をし、選手のファンに本を手にとってもらい読書意欲の喚起につなげるなど「いつでも・どこでも・だれでも読書」を目指しています。

また、幅広い読書情報を提供する、ホームページ「あきたブックネット」を運営し、秋田県で推進している「家族で読書」推進事業や「スギッチリサイクル文庫」事業、読書ボランティアの活動情報、読書クイズなど、さまざまなコンテンツを揃えて読書の楽しさを伝えています。

「あきたブックネット」ホームページ <http://common3.pref.akita.lg.jp/akita-booknet/>



▲「県民読書の日」  
ミニのぼり旗



▲「ふるさと秋田文学賞作品集」表紙



▲「ハピネッツとハッピー読書」事業  
読み聞かせ会



▲ブラウブリッツ秋田  
試合会場読書コーナー

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において「地方への新しいひとの流れをつくる」が基本目標に設定され、地域の中小企業に必要とされる人材を大都市圏で掘り起こし、地域への還流を促す仕組みを強化し、人材の確保・育成を行うことが必要とされています。「中小企業・小規模事業者人材対策事業(以下、人材バンク事業)」では、各県に地域コーディネート機関を設置し、地域中小企業・小規模事業者の人材のニーズに対応すると同時に、東京・仙台をはじめ大都市圏に人材発掘の拠点を設置しています。



▲「地方創生×東北U・Jターンシンポジウム」

また、東北経済産業局においても、国と地方が一体となりU・Jターンの仕組みづくりを進めるため、東北6県、人材バンク事業の各県地域コーディネート機関等と「U・Jターン研究会」を立上げています。

そのキックオフとして、去る9月13日、東京交通会館(東京都千代田区)において「地方創生×東北U・Jターンシンポジウム—U・Jターンのリアル、東北の創造—」を開催しました。生活環境・就業環境の変化が伴うU・Jターンは、その実現までに物理的・精神的なハードルが低くありません。シンポジウムでは、U・Jターンされたゲストスピーカーの経験談やU・Jターン者に対する調査結果などからU・Jターンのリアルに焦点をあて、また新たに身を置く社会の中で自己実現を成し遂げるためのシゴトの仕方、地域社会でのネットワークづくりなどについて議論しました。

「U・Jターン研究会」では、今後、U・Jターンの受け皿としての企業・地域、Uターンに対するポジティブイメージ、地域に軸足を置いた多様な雇用・居住形態等をテーマに検討を進めてまいります。

また、同日同会場では、人材バンク事業の東北各県の地域コーディネート機関が企画する「とうほく回帰1万人会議」(後援：東北経済産業局、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)が開催されました。1万人会議は、「自分の力でとうほくを変えていこう、新しいとうほくを創っていこうという人材が東北に1万人回帰したとき、創りたい社会のありかた」を描くという試みです。トークセッションでは“世界に評価される東北のシゴト”をテーマに、U・Jターン先駆者が東北地域の可能性について発信を行い、また東北各県の地域企業紹介ブース・創業相談ブース等が出展しました。



▲「とうほく回帰1万人会議」地域企業紹介ブース



▲「とうほく回帰1万人会議」トークセッション

第4回東北圏広域地方計画協議会を開催

東北圏広域地方計画推進室

去る9月15日(火)、仙台市内において、国、地方公共団体、経済団体等の長が構成員となっている「第4回東北圏広域地方計画協議会」を開催いたしました。

本協議会では、8月に開催した有識者懇談会等の意見を踏まえた、東北圏広域地方計画改定中間整理案について審議いただきました。

始めに、武藤国土交通審議官より、『8月14日に閣議決定された新たな国土形成計画の基本コンセプトは「コンパクト+ネットワーク」であります。それぞれの地域が個性を磨き、異なる個性を持つ



【→次頁へ続く】

各地域が連携する「対流促進型国土」の形成を目指すこととしております。新たな広域地方計画は、この全国計画を基本として、東北圏における骨太の圏域構造と、その実現に向けた、具体的な取組方針を明らかとさせていただくものです。まさに、東北圏における「コンパクト+ネットワーク」の姿と、対流促進型国土の具体的な形が明らかとなることが期待されています。変化を続ける世の中の動きを的確にとらえ、東北圏域内にとどまることなく、他圏域との連携、さらには、アジア・ユーラシアダイナミズムの取り込みという観点からの議論も深めていただきたい。』と挨拶がありました。その後、国土交通本省から「新たな国土形成計画（全国計画）」の概要について説明があり、続いて、事務局より「東北圏広域地方計画改定中間整理案」の説明を行い、各構成機関より了承を得ました。

本協議会の詳細については、東北圏広域地方計画協議会ホームページをご覧ください。

→<http://www.thr.mlit.go.jp/kokudo/kyougikai/kyougikai04.html>

## 人事異動

10月1日付け、東北圏広域地方計画推進室の人事異動がありましたので、お知らせします。

（新室長）桑原 徹郎（くわばら てつろう） 本州四国連絡高速道路株式会社企画部長より

（前室長）渥美 雅裕（あつみ まさひろ） 大臣官房付・即日辞職

## 編集後記

唐突ですが、先月のシルバーウィークに秋田県へ観光に行っていました。初日は男鹿の寒風山・水族館・入道崎と回り景色等を堪能（夕日は雲に隠れて見れませんでした。）。2日目は、仙岩峠茶屋のおでんを食べ、旅の目的地でもあった乳頭温泉鶴の湯へ。乳白色のお湯に浸かり、しばし運転の疲れを癒やし、その帰りに角館で醤油ソフトクリームも食べてまいりました。今年は、なかなか遠出する機会がありませんでしたが、シルバーウィークを利用して心身ともにリフレッシュすることができました。

各構成機関の皆様も、体調を崩さぬようご留意下さい。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp